

第11節 施設・設備

【到達目標】

本学の理念や学部・研究科の教育目標を達成するために施設・設備を効果的に活用できるよう計画的な整備を図るとともに、学生、教職員にとって快適な環境の整備を進める。

教育研究の深化を図るために、マルチメディア機器、コンピューター教育施設、ソフトウェア、情報ネットワークなどIT化に対応した教育施設の充実と活用を推進する。

また、分離キャンパスであることで学生や教職員の負担が増えないよう、両キャンパス間の情報通信システムを整備する。

これらを実現するために、次に掲げる事項を施設・整備に関する主要な目標として定めている。

- ①施設整備計画に基づき計画的な整備を行うとともに、教室等の利用目的や頻度などの現状を把握し、必要に応じて有効利用のための施設改修についても機動的に対応する。
- ②ユニバーサルデザインに配慮し、スロープ、障がい者用トイレ、自動ドア等を整備する。
- ③講義、演習科目においてインターネットやマルチメディア機器を活用できるよう、情報処理システム室等の一部の教室だけでなく、一般教室の環境も整備する。
- ④キャンパス間の情報通信回線を整備の上、遠隔授業システム及びテレビ会議システムを導入する。
- ⑤安全衛生管理規程を整備し衛生管理者の配置を行い、全学的な安全衛生管理体制を整備するとともに、学内の巡視を行い危険箇所の点検や補修を行う。

(施設・設備等の整備)

【現状の説明】

<佐世保校>

佐世保校は、長崎県佐世保市川下町に位置し、敷地面積は88,079.75㎡であり、設置基準上必要な校地面積(18,000㎡)を十分に満たしている。また、校舎等延べ面積は23,931.69㎡であり、設置基準上必要な校舎面積(8,263㎡)を十分に満たしている。主要な施設としては、本館4,964.18㎡、講義棟1,970.45㎡、新館講義棟・情報処理棟・研究棟6,059.58㎡、学生会館1,604.91㎡、附属図書館3,848.91㎡、体育館2,176.97㎡、武道場624㎡、クラブハウス850.62㎡がある。

各施設の概要は表11-1のとおりである。本館は昭和42年、武道場は昭和43年、講義棟、学生会館は昭和44年に建設されたものであり、現在では一部老朽化してきている。

表 11-1 大学施設の概要（佐世保校）

施設区分	構造	建築	面積 (㎡)	概要	
土地	校舎敷地		88,079.75		
建物	本館	R C造3階建	S42.4	4,964.18	理事長室、学長室、副学長室、事務局、講義室、ゼミ用教室
	新館	R C造3階建 R C造6階建	H4.8	6,059.58	A V教室(2)、A V編集室、大講義室、情報処理演習室、各教員の研究室、特別会議室、教授会室、東アジア研究所、共同研究室
	大学院棟	R C造2階建	S42.4	1,392.00	講義室、各ゼミ室
	講義棟(旧 図書館)	R C造4階建	S44.9	1,970.45	講義室、情報処理演習室、演奏室
	附属図書館	R C造4階建	H8.3	3,848.91	蔵書約26万2千冊、検索システム等36台、一般にも開放。 多目的ホール(210席)、テレビブース(8席)、CDブース(4席) ビデオ・DVDブース(1人用2席、2人用2席、4人用2席)、インターネット10席 個人閲覧室7席、マイクロ資料室、図書閲覧室、新聞閲覧コーナー等
	学生会館	R C造2階建	S44.5	1,604.91	学生食堂、売店、和室、会議室
	体育館	R C造2階建	H17.3	2,176.97	アリーナ、トレーニング室等
	クラブハウス	R C造2階建 及び1階建	H5.4	850.62	体育会クラブ室、文化会クラブ室、学生自治会
	武道場	R C造2階建	S43.7	624.00	1階 シャワー室等、空手系クラブ 2階 剣道場と柔道部(畳)
	その他			440.07	倉庫、車庫、浄化槽管理室等
建物計			23,931.69		

<シーボルト校>

シーボルト校は、長崎市中心部から北へ 8 km、長崎市に隣接する長与町の南端、大村湾を一望できる丘陵地に立地している。

校地面積は、100,775 ㎡であり、設置基準上必要な校地面積(9,800 ㎡)を十分に満たしている。校舎面積は、31,031 ㎡であり、設置基準上必要な校舎面積(13,035 ㎡)を十分に満たしている。講義室・演習室・学生自習室の総数は53部屋で、これらの総面積は5,782 ㎡である。

主要な施設としては、東棟9,389 ㎡、西棟7,287 ㎡、中央棟2,346 ㎡、学生会館1,942 ㎡、附属図書館2,613 ㎡、体育館2,650 ㎡がある。

東棟は、看護栄養学部及び人間健康科学研究科が使用する建物で、講義室3室、演習室8室、実習・実験室13室、学生用自習室2室からなる。実習・実験室には老人ホームを再現した地域・老人看護学実習室や調理学実習室などがある。その他にも、マイナス温度に保たれた低温室などがある。

西棟は、主に国際情報学部及び国際情報学研究科が使用する建物で、講義室9室、演習室14室、学生自習室3室からなる。演習室には情報演習室のほか、コンピューター演習室、テレビ局スタジオ用の機器等を備えたメディアスタジオや、映像を編集するメディア調整室などがあり、専門教育の環境が充実している。

中央棟は、共通棟として両学部が共用する建物で、主に講義室11室からなる。講義室の中には音楽、美術の実習室がそれぞれ1室ずつあり、教養教育の場として用いられている。

学生会館は、食堂、売店、自習室からなり、2階の一部には、庭園を有する本格的な茶室を備え、留学生への日本文化紹介にも役立っている。

また、本部棟は主に管理棟として機能しているが、学内で最も大きな大講義室もある。大講義室は490名を収容でき、200型大型スクリーンと書画カメラ、ビデオ、LD、CD、MDなどの豊富な視聴覚メディアが利用できるため、授業のほか卒業論文の発表会など多くの機会に用いられている。各施設の概要は表11-2のとおりである。

表11-2 大学施設の概要（シーボルト校）

施設区分		構造	建築	面積 (㎡)	概要
土地	校舎敷地			100,775.00	
建物	本部棟	R C造2階建	H11.1	2,827.65	学長室、事務局、大講義室等
	東棟	R C造6階建	H11.1	9,388.55	看護栄養学部・大学院人間健康科学研究科関連の講義・研究棟講義室、演習室、看護学科実習施設、栄養健康学科実験施設等
	西棟	R C造5階建	H11.1	7,286.78	国際情報学部関連の講義・研究棟講義室、演習室、情報関連演習室、メディア・スタジオ、LL教室等
	中央棟	R C造2階建	H10.8	2,345.98	全学共通の講義室・共通自習室等
	図書館	R C造3階建	H10.10	2,612.99	蔵書能力約20万冊、図書閲覧コーナー、AV・情報コーナー、図書検索コーナー
	学生会館	R C造2階建	H10.10	1,942.34	学生食堂、売店、自習室、ラウンジ等
	体育館	R C造2階建	H10.10	2,650.29	アリーナ、多目的室、トレーニング室
	クラブハウス	R C造3階建	H10.10	550.26	クラブ活動の部室、学生自治会室
	エネルギーセンター	R C造2階建	H10.9	887.83	大学施設全体を統合的に管理する中央監視盤を備えた中央監視室（空調切替などを制御）
	その他			538.31	倉庫、体育倉庫、廃棄物保管庫等
建物計				31,030.98	

(キャンパス・アメニティ等)

【現状の説明】

<佐世保校>

佐世保校におけるキャンパス・アメニティの形成・支援のための体制としては、大学側と学生自治会との意見交換会の実施や学生アンケートの実施により、学生から学内整備等に関する要望

を聞き取る場を設けている。提示された意見及び要望については関係各部署において検討し、実施の可否や対応等について回答を行っている。

学生生活全般の指導助言については、学生支援課学生グループにおいて随時行っている。また、保健室を設置して保健師2名を常駐させるとともに、学生相談室を設置し臨床心理士によるカウンセリングを週2回程度実施することで学生の心身両面からのケアを行っている。

本キャンパスが整備している「学生のための生活の場」としては、学生会館、体育館、武道場、クラブハウスなどがある。

学生会館は、1階に約400席の学生食堂、2階に書籍文具等の売店及び約110席の談話スペースを整備しており、学生の食事の場や休憩場所を提供している。

学生の課外活動を支援するため、サークルや同好会の活動拠点として、更衣室や温水シャワーを備えたクラブハウス(2階建て、40室)を設置している。また、屋内体育施設として体育館(アリーナ、トレーニング室)を、屋外施設としてグラウンド(33,063㎡)、テニスコート(8面、6,300㎡)を有している。

キャンパス内には、200台を収容できる駐車場、680台を収容できる駐輪場を設置しており、車やバイク、自転車で通学する学生へ提供している。これらは許可制とし、混雑による事故の防止、緊急時の救急車両等の進入路確保、大学としての適切な教育研究環境の保持に努めている。さらに大学への出入口には警備員を配置し、無許可車両の入構を規制している。

交通手段としては、佐世保市中心部と大学前を約30分で結ぶ松浦鉄道、西肥バス、市営バスがあり交通アクセスには恵まれている。

本キャンパスは、住宅地には隣接していないこともあり、日常的には騒音に対する周辺住民から苦情はあまりない。ただ過去に大学祭などイベント時に騒音に対し苦情が起きたことがあり、大学祭実行委員会と大学側の意見交換会の場で注意を喚起するとともに、大音量を伴うイベントについては使用時間や場所を制限している。

その他、「環境」への配慮としては、清掃員により大学周辺の公道の清掃を行っている。

<シーボルト校>

シーボルト校におけるキャンパス・アメニティの形成・支援のための体制としては、毎年大学の代表者(学生部長、事務局各課長及びグループリーダー)と学生自治会との意見交換会を実施し、学生から学内整備等に関する要望を聴取する場を設けている。提示された意見及び要望については関係各部署において検討し、実施の可否や対応等について回答を行っている。

学生生活全般の指導助言については、学生支援課学生グループにおいて随時行っている。また、保健室を設置して保健師1名を常駐させるとともに、学生相談室を設置し臨床心理士によるカウンセリングを週3回程度実施することで学生の心身両面からのケアを行っている。

本キャンパスは、カスケード(水階段)や芝生、多くの植栽等により、キャンパス全体が「学生のための生活の場」としてアメニティ度の高い緑の丘を形成している。また、本部棟、東棟、西棟、中央棟、附属図書館及び学生会館をシンメトリックに配置し、これらの建物を回廊やブリッジによって繋ぐことで各建物間を降雨にさらされることなく移動できるよう配慮している。

学生会館をはじめとして屋内外各所にベンチや椅子、テーブル等を設置し、学生同士が談話できるスペースを数多く設けている。また、学内に喫煙スペースを設け、このスペース以外では屋内屋外を問わず禁煙とすることで分煙を徹底している。

学生会館には、生活協同組合が運営する売店、喫茶室、食堂を備えている。食堂は、3面を高さ8mのガラス張りとし、明るく開放的な空間を創り出し、食事の提供についてはバイキング方式による、1グラム1円の量り売りを行うなど特徴的なスタイルをとっている。

学生の課外活動を支援するため、サークルや同好会の活動拠点として、更衣室や温水シャワーを備えたクラブハウス(3階建て、20室)を設置している。また、屋内体育施設として体育館(アリーナ、トレーニング室、多目的室)を、屋外施設としてグラウンド(14,801㎡)、テニスコート(6面、3,872㎡)を有している。

なお、シーボルト校は実験系の学科を有するため、無機・有機廃液や実験動物の屍体等の産業廃棄物が発生するが、大学周辺の「環境」への配慮から、これらをすべて回収し施設可能な場所に保管するとともに、処理業者に委託し搬出及び処理を行っている。

水の利用については、キャンパスの4棟(東棟、西棟、中央棟及び図書館)屋上への降雨を中央棟地下に設置した貯水槽(500㎡)に集め、処理設備を介して学内の散水、トイレ洗浄、カスケード等に利用している。また、湯水使用の多い実験室及び実習室ではソーラーシステムによる中央給湯方式を採用している。

(利用上の配慮)

【現状の説明】

本学は佐世保校とシーボルト校からなるが、佐世保市にある佐世保校と西彼杵郡長与町にあるシーボルト校の間は、高速道路を利用しても片道1時間半を要し、キャンパス間を行き来することが容易ではない。

ただし、現在は、学生が授業のためにキャンパス間を行き来する必要はなく、それぞれのキャンパスのみで履修することを可能としている。

なお、平成20年度からは、大学専用のマイクロバスと大型バスを配備し、学外での実習などに使用されているほか、両キャンパスの学生の交流に用いている。このバスの使用については、学内Webにバスの使用基準要綱を掲載し、いつでも確認できるようにしている。

障がい者への配慮については、佐世保校では、身体に障がいを持つ人が学生生活をスムーズに送れるよう専用駐車場、自動ドア、スロープ、手すり、身体障がい者用エレベーター、トイレ等の設備を学内の各所に整備している。また、シーボルト校では、車椅子利用者の就学に配慮し、スロープ、身体障がい者用カーポート、車椅子用トイレ、車椅子対応エレベーターを設置している。なお、固定式の椅子がある講義室においても、いくつかの椅子を取り外すことにより、車椅子のままでも受講できるよう臨機応変な対応を心掛けている。

(組織・管理体制)

【現状の説明】

教職員の安全及び健康を確保するため、安全衛生管理規程を整備し、法人統括安全衛生管理者に理事長を、大学の統括安全衛生管理者に学長を充てている。また、衛生管理者による職場巡視を学内全域において行うことにより、危険箇所を早めに発見し、教職員のみならず学生の安全確保にも効果をあげている。

施設・設備ならびに備品などの維持・管理については、「長崎県公立大学法人会計規則」、「長崎県公立大学法人不動産等管理規程」、「長崎県公立大学法人物品管理規程」に則り、佐世保校においては事務局総務課、シーボルト校においては事務局総務企画課が担当している。なお、特殊かつ専門的な業務については、外部委託した上で、総括的な管理を行っている。委託業務は、警備業務、環境衛生管理業務、空調設備保守点検業務、消防用設備等点検業務、設備管理業務、機械警備システムの保守など多岐に亘っている。

<佐世保校>

学内施設を学外者や学生に使用させる際には、施設使用許可申請書により資産分掌管理者である事務局長の承認を行っている。

防火・防災及び危機管理については、「長崎県立大学防災マニュアル」を作成し、年度初めのオリエンテーション時に学生に配布するとともに説明を行っている。

また、日常の管理を行うとともに不測の事態に備えるため、365日24時間態勢で警備員(委託)を配置している。

<シーボルト校>

シーボルト校は学長を総括施設管理者とし、学内それぞれの施設には各施設の管理者を置いている。

学生部長は各棟の講義室、演習室、自習室、クラブハウス、および学生が使用する際のグラウンド、テニスコート、体育館を、国際情報学部長は西棟および中央棟の各種情報演習室と学科研究室を、看護栄養学部長は東棟の実験室・実習室および共同研究室を、附属図書館長は附属図書館をそれぞれ担当し、それ以外の施設については事務局長が担当している。学内施設を学外者や学生に使用させる際には各施設管理者の承認を与える必要があるため、使用される施設によって、受付窓口が学生グループと総務グループに分かれている。

機器・備品の管理については、それぞれの管理区分に従い、事務局総務企画課や教員が管理台帳等に基づく実査などにより、適切に行っている。さらに、実験などで使用する薬品類については、実験室内に整理して保管するとともに管理責任者である教員により適切に管理している。そのほか、放射線実験室には、専任の放射線取扱主任者を配置し、安全には特に細心の注意を払っている。

【点検・評価】

＜佐世保校＞

本学は分離キャンパスであるため、キャンパス間の情報通信回線を整備し、遠隔授業システム及びテレビ会議システムを導入している。＜到達目標④＞

さらに、キャンパス内には学内LANおよびインターネットにアクセスできる環境を整備しており、また附属図書館、講義棟、本館、新館の一部については、無線LANを構築しており、教育研究に利用されている。スクリーン、プロジェクター、書画カメラ、DVD、ビデオ、LDを設置し、様々な媒体を使って分かりやすい授業ができる講義室を整備しているほか、CALLシステムが利用できる教室も整備している。＜到達目標③＞

本学では施設整備計画を策定し、その計画に基づき施設整備を行っている。また、突発的に発生した施設整備については適宜対応し、教育研究への影響を最小限度にとどめている。しかし、本校には昭和40年代に旧耐震基準により建築された施設もあることから、耐震診断を実施し、その結果に基づき対策を講じる。＜到達目標①⑤＞

また、施設整備計画に基づき、スロープ、手すりの設置などを段階的に整備しているが、エレベーター及び身体障がい者用トイレの未設置が3棟ある。講義室には身体障がい者用机やイスが整備されておらず、障がいのある学生や高齢者への配慮が必要である。＜到達目標②＞

＜シーボルト校＞

各棟の講義室には、スクリーン、プロジェクター、書画カメラ、DVD、ビデオ、LDを設置し、様々な媒体を使って分かりやすい授業ができる環境を整備している。外国語教育の充実を図るため、LL教室が2部屋あり、CALLシステムによる英語の授業や、実習、自習などに使用している。また、各種情報処理関連の教育を行うために、前述の情報処理演習室、マルチメディア演習室、メディアスタジオを設けている。情報処理演習室にはパソコンを設置している。マルチメディア演習室には、パソコンとハイビジョン対応のデジタルビデオデッキを設置し、デジタル映像の加工・編集、発信などの教育に使用している。また、メディアスタジオには、本格的なスタジオ設備があり、各種映像の収録や、オープンキャンパスでの番組放映など、情報発信に関する実践的教育に使用している。＜到達目標③＞

このほか、2つの講義室には、佐世保校との間で「遠隔授業」を行うための大型モニターなどの設備を配置している。＜到達目標④＞

シーボルト校は、建設されてからまだ10年を経過したばかりであり、突発的に発生した施設整備についても適宜対応していることから、大きな支障は生じていない。また、障がい者の就学にも十分配慮し、スロープ、身体障がい者用カーポート、車椅子用トイレ、車椅子対応エレベーターを設置するとともに、講義室においても、車椅子のまま受講できる設備となっている。＜到達目標②⑤＞

一方、実験機器類などの設備は、故障や損耗が生じ始めている。これらについては計画的に更新を行うとともに、突発的に発生した故障等についても適宜対応しており、教育研究への影響を最小限度にとどめている。しかし、今後、損耗等が生じる設備は増加していくことが想定される

ことから、これらに対して今後さらに適切に対応する必要がある。〈到達目標①〉

また、通常の講義室にはプロジェクターを設置しているものの、演習室にはプロジェクターを設置していない。教育環境の向上のためには、プロジェクターの設置を進めていく必要がある。

〈到達目標③〉

【改善の方策】

〈佐世保校〉

今後も学内巡視を徹底することで、学内の危険箇所、修繕を要する箇所を早期発見し、修繕等の対応を行う。また、老朽化している建物については、法人の設立団体である県と協議のうえ、耐震診断を実施し、その結果に基づき対策を講じる。〈到達目標⑤〉

また、障がいのある学生や高齢者に配慮した学習環境について、今後も継続して優先順位に基づいた計画的な整備を実施する。〈到達目標②〉

〈シーボルト校〉

機器類などの設備の更新・整備については、中長期的な視野に立った更新・整備計画を策定して、さらに計画的に整備を進めるとともに、突発的に発生した設備整備にも適切に対応を行う。

〈到達目標①〉